

今後のこども・若者の社会参画及び意見反映について (素案)

令和6年〇月

こども家庭審議会基本政策部会

こども・若者参画及び意見反映専門委員会

この資料について

- こども・若者の意見反映・社会参画について、「こども若者参画・意見反映専門委員会」がこれまで話し合ったことや「こども大綱」で決まったことを踏まえて、**今後こども家庭庁や専門委員会が考えたり、取り組んだりした方がいいこと**をまとめたもの。
-
- こども・若者参画のモデルとなる「委員会」として、こども・若者にもわかりやすいよう、**やさしい言葉**でまとめたもの。

1 国が意見を聴くための取組

● 意見反映の取組(こども若者★いけんぷらす)始めた

- ・対面・オンライン・アンケート・チャット・出向く型など多様な手法を組み合わせた。
- ・テーマについて、参加者にあわせたわかりやすい資料を使って、あらかじめ説明を行った。
- ・意見が反映されたかどうか、分かりやすくフィードバックした。
- ・こども家庭庁のホームページに資料を載せて、こども・若者の意見を聴くことの大切さについての理解をひろげた。

● 様々なこども・若者の声を聞くにはどうしたらよいかまとめた

● ファシリテーターを育てるためのプログラムを作った。

2 自治体が意見を聴くことをサポートする取組

● 国や都道府県、市区町村で働く人のためのガイドラインを作った。

- ・国や都道府県、市区町村で働く人に向けて、こどもや若者の意見を聴くことが大事だと知ってもらい、意見を聴く取組をしてもらうために、ガイドラインを作った。

● 「こども・若者意見反映サポート事業」を始めて、ファシリテーターやこども家庭庁で働く人が県や市区に行って、意見を聴くにはどうすればよいのか、相談に乗った。

- ・どういう点がうまくいって、どんな点がうまくいかないかわかった。

1

国が意見を聴くための取組

- 「こども若者★いけんぷらす」を来年度も行う。
 - ・多様なこども・若者の声を聞くために、「出向く型」の回を増やす。「出向く」先の負担にならないように工夫する。
 - ・「こども若者★いけんぷらす」や意見を表すことの大切さをみんなに知ってもらうようにする。
- **こども・若者が大人の会議に参加しているか調べ、どうすれば参加しやすいか、専門委員会で考える。**
- **こども・若者の意見が聴かれているか、今の状況を調べる。**
 - ・どのように何に取り組んでいるか、プロセスや悩んだことも含めて、周りの職員に知ってもらう。
- **こども・若者が主体となって活動する団体と意見交換を行う。**

2 自治体が意見を聴くことをサポートする取組

- 作った国や都道府県、市区町村で働く人のためのガイドラインを多くの人に知ってもらう。
- ファシリテーターを育てるプログラムを使って、ファシリテーターとして必要なスキルを学べる機会を作る。
- 都道府県や市区町村でこども・若者の意見が聴かれているか、今の状況を調べる。
 - ・どのように何に取り組んでいるか、プロセスや悩んだことも含めて、周りの職員に知ってもらう。
- 「こども・若者意見反映サポート事業」を実施し、ファシリテーターが県などに行って、意見を聴く取組をサポートすることで、良い例を作り出して、周りの都道府県や市区町村にも意見を聴く取組が広まるようにする。

3 こどもや若者が集まって活動する団体の後押し NEW

- こどもや若者が集まって活動する団体と国・都道府県や市町村が協力している例を集めて、こども若者が社会に関わることをみんなに知ってもらう。

1 国が意見を聴くための取組

- 「こども若者★いけんぷらす」をより良くしていく。
 - ぷらすメンバー(登録しているこども・若者)の数を1万人にする。
 - 「テーマ」の設定、聴く質問について、こども・若者が関われるように考える。
- 発達の段階に応じて、意見を聴くことができるように工夫する。

2 自治体が意見を聴くことをサポートする取組

- 国や都道府県や市区町村がやっていることを調べた結果から、何ができていて、何ができていないか、考える。
 - どうしたら「できなかったこと」を「できる」ようにしていくか、考える。
- 都道府県や市区町村が、自分たちでファシリテーターを育てることができるようにする。

3 こどもや若者が集まって活動する団体の後押し

- こどもや若者が集まって活動する団体を後押しする方法を考える。

4

その他

- こどもや若者から意見を聴いたり、こどもや若者が参加する方法について、どうやって評価するかを考える。